

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

平成29年10月31日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
履正社医療スポーツ専門学校		平成10年4月1日		釜谷 等		〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人履正社		大正11年4月1日		釜谷 行藏		〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																														
文化・教養	文化・教養専門課程		スポーツ学科			平成6年文部科学省 告示第84号																															
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法ならびに関係諸法令に従い、文化・教養専門課程を設置し、その理論と実技を授け活力のある人材を育成し、社会環境の向上に寄与し、もって人類の福祉に貢献する人物の養成を目的とする。																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																														
2年	昼間	1,860時間	1350時間	90時間	240時間		180時間																														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																															
280人		300人	4人	25人	47人	72人																															
学期制度	■前期 : 4月1日～9月30日 ■後期 : 10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験、課題遂行等より評価 優(80点以上) 良(79～70点以上) 可(69～60点以上) 不可D(59点以下)																															
長期休み	■学年始 : 4月1日 ■夏季 : 8月上旬～8月下旬 ■冬季 : 12月下旬～1月上旬 ■春季 : 3月中旬～4月初旬			卒業・進級条件		各学年において履修すべき科目の所定の単位修得を認定されたものは進級を認める。また全ての指定された単位数を取得し、規定の出席率を満たした者に判定会議の審査にて校長が認定し、卒業証書を授与する。																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任より定期的に面談及び家庭訪問を実施し、状況把握と改善に努める。			課外活動		■課外活動の種類 体育祭の実行委員会・24時間マラソン運営・スキー、スノーボード実習・トレーナー研修 ■サークル活動: 有																															
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 主な就職先、業界等については、チーム(プロ・アマ)・スポーツ関連団体・企業、施設・福祉介護施設や民間企業等多岐に渡る。 ■就職指導内容 1年次後期に業界研究の一環として進路ガイダンスを実施。キャリア教育として社労士を招いての講演を実施するなど労働環境に関わる知識を深める教育を実施。現場実習(インターンシップ)を積極的に取り入れるなど実践力向上を目指し ■卒業者数 162 人 ■就職希望者数 116 人 ■就職者数 87 人 ■就職率 75 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 54 % ■その他 ・進学者数: 11人 ・専門分野のより高度な教育を望む声が高く、体育大学や体育学部のある大学を選ぶ傾向が強い。一方でスポーツマネジメントに興味のある学生は、異分野ではあるが経済・経営学部を受験している。 (平成 28 年度卒業者に 平成29年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等)		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に 平成29年5月1日 時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JASA公認アスレティックトレーナー</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>PHIピラティスマットI</td> <td>③</td> <td>37人</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>日本サッカー協会公認C級コーチ</td> <td>③</td> <td>49人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>テニス指導員</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>日本バスケットボール協会公認コーチ</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JASA公認アスレティックトレーナー	③	14人	4人	PHIピラティスマットI	③	37人	34人	健康運動実践指導者	③	16人	12人	日本サッカー協会公認C級コーチ	③	49人	43人	テニス指導員	③	11人	11人	日本バスケットボール協会公認コーチ	③	10人	10人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																		
JASA公認アスレティックトレーナー	③	14人	4人																																		
PHIピラティスマットI	③	37人	34人																																		
健康運動実践指導者	③	16人	12人																																		
日本サッカー協会公認C級コーチ	③	49人	43人																																		
テニス指導員	③	11人	11人																																		
日本バスケットボール協会公認コーチ	③	10人	10人																																		
中途退学の現状	■中途退学者 44 名 ■中退率 13.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者326名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者282名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更・経済的理由・家庭の事情・病気 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談や、保証人を交えての三者面談を何度も行い、中退防止に努めている。 場合によっては本校専属のカウンセラーにも相談に乗って頂いている。																																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 履正社特別奨学金・特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																				
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.riseisha.ac.jp/">http://www.riseisha.ac.jp/</a>																																				

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる半数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞したことのきっかけが動機になり、入学してくる。我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、企業等と連携し、特色的な授業内容とカリキュラムを策定する。

具体的には、生徒が目指す高校部活動ヘトレーナーとして派遣している接骨院、スポーツ整形クリニックでの、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させる。

また、当該分野にて活躍活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行う。2020年に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。スポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているので、その患者にうまく対応できる、同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応え、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校組織図(文化教養専門課程)校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。  
カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念の基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育課程編成委員会を独立した組織と定義し、今後は企業(スポーツ関連機関など)の声や意見を取り入れ、スポーツ産業の変革に適應できるよう、カリキュラムを編成していきたい。具体的にはスポーツ学科担当教員による週例会議でカリキュラム編成会議を実施し学科長会議を経て教育課程編成会議にて議論を行う。最終は正副校長会議で決裁される

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
西脇 雅人	大阪工業大学 一般社団法人日本体力医学会	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	②
梅原 哲朗	株式会社 Toughrit	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③
池内 勇太	株式会社 兵庫プロバスケットボールクラブ	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③
釜谷 等	履正社医療スポーツ専門学校 校長	内部委員	
釜谷 一平	履正社医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	
狩野 祐司	履正社医療スポーツ専門学校 AT統括者	内部委員	
足立 麻由佳	履正社医療スポーツ専門学校 ATコース長	内部委員	
大江 信一郎	履正社医療スポーツ専門学校 スポーツGM	内部委員	
浅村 典正	履正社医療スポーツ専門学校 コース長	内部委員	
小田 啓之	履正社医療スポーツ専門学校 教務主任	内部委員	
竹中 宏	履正社医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(5月・9月)

(開催日時)

第1回 平成29年5月16日 18:00～

第2回 平成29年9月5日 18:00～

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成会議の中で委員の先生方から「仕事に対するイメージが無いまま就職してしまうと、早期に離職するケースが多い為、学生時代からの積極的なインターンシップへの参加は、卒業後に即戦力として働くには非常に重要なことである」という貴重な意見を踏まえて、長期のインターンシップを授業の一環として取り入れることや今よりも更に企業の方々と連携を取りながら実技・実習に関する内容の授業を積極的に行うようにカリキュラムの見直しを図る。

(別途、以下の資料を提出)

- \* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- \* 教育課程編成委員会等の規則
- \* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- \* 学校又は法人の組織図
- \* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校では、スポーツ業界において必要とされる知識・技術に加え社会人としての礼儀作法の習得を目指した職業教育の実施を目的とし、スポーツトレーナー・パーソナルトレーナーとかかわりの深いトレーナー業界フィットネス業界、また競技系スポーツチームと連携し実践的な職業教育を行う。卒業後、各現場にて即戦力となる人材を養成するにあたり、授業開始前に担当教員と綿密に打ち合わせを行い、授業内容の決定だけでなく、履修学生の学修状況や性格、得意不得意などの学生情報を共有した後に授業を行っていただくようにしている。授業においては、専門的な知識の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の養成も行っている。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 連携している企業の方より実際の現場に必要な知識・技術を伝授していただく。また、業界の現状を享受し必要なトレーニングプログラムやクライアントとの接し方を実戦形式で身に付くように指導を受ける。学期末には企業の先生方より学習評価を受ける。担当教員と企業より派遣していただいた講師の先生および企業スタッフの方と綿密に打ち合わせを行う。授業実施期間中は、学生の熟達度や授業進捗状況の打ち合わせを行い、学生の熟達状況に応じて臨機応変に授業内容の変更も行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・重さ・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	身体運動塾
トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	身体運動塾
コンディショニングⅠ	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける。	スポーツインテリジェンス
コンディショニングⅡ	競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。	スポーツインテリジェンス
スポーツ医学Ⅱ	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着用しての講義だけではなく、発生機序の理解を実習室等で、実際に体験しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う	スポーツインテリジェンス
(別途、以下の資料を提出) * 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等		
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 本校が定めている、教員に対する研修に係る諸規定に準じ、業団（日本体育協会や日本水泳連盟など）が開催する講習会、学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映させる。		
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 基礎水泳指導員養成講習会 受講（10月30日～11月27日） ※本校は日本水泳連盟の認定校として承認を得ている ※認定校として承認を得ている公認水泳指導員資格の実技担当教員として、日本水泳連盟が推奨する水泳の指導方法や水中運動に関わる様々な環境の変化を理解し、学生に還元することを主な目的とする。（毎年継続して受講） 第5回日本アスレティックトレーニング学会学術集会（7月9日・10日） ※本校は日本体育協会の認定校として承認を得て日本体育協会公認アスレティックトレーナーの養成を行っている本校において、最新のアスレティックトレーニングを学び、学生に還元することを目的としている。（毎年継続して受講） ② 指導力の修得・向上のための研修等 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専任教員講習会（11月9日・10日） ※本校は日本体育協会の認定校として日本体育協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。（毎年継続して受講） (3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 公益社団法人 健康づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会（11月8日～11月27日） ※本校は健康づくり事業財団の認定校として承認を得ている ※認定校として承認されている健康運動実践指導者資格の上級資格である健康運動指導士資格を本校教員が取得し、学生の資格対策に活かすことを目的とする。（毎年継続して受講） 第11回 日本トレーニング指導者協会 総会・研修会（5月28日） ※本校は日本体育協会の認定校として承認を得て* 本校アスレティックトレーナーコースの学生が目指す資格の1つである日本トレーニング指導者協会公認スポーツ指導者の資格発行団体のセミナーに参加し、最新のトレーニング理論を学び、学生に還元することを目的とする。（毎年継続して受講） ② 指導力の修得・向上のための研修等 日本レクリエーション協会主催 教員免許更新講習会 受講（11月8日～11月27日） ※本校は日本レクリエーション協会の認定校として承認を得ている ※子どもに対しての運動機能の発達や高齢者に対しての認知機能の向上につながるレクリエーション。教員のレクリエーションの指導テクニックの維持向上を図るための講習参加である。本校スポーツ福祉専攻やこども体育専攻に導入しているカリキュラムであり、本校教員が継続的に協会の講習を受講することで、充実した教育プログラムを学生に提供できる。（毎年継続して受講） (別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者としてトレーナー業界、医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。  
 医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成やスポーツ・医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。  
 職業実践教育及び即戦力に対して、学外での実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。  
 人材育成においては、入学直後に新入生一泊研修制度を導入し、人格教育及び社会人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。  
 最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
伊藤 久夫	公益社団法人 大阪府鍼灸マッサーヂ師会	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
野柳 俊英	やなぎ整形外科クリニック	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
中谷 功	なかたに鍼灸整骨院	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
松尾 和弥	メディカルケア福田 デイサービス福	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物 平成29年10月初旬)

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

(別途、以下の資料を提出)

- \* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- \* 自己評価結果公開資料
- \* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

入学者の多くが、将来スポーツ関係に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、情報提供として企業等の学校関係者に随時説明を行っている。  
また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2)各学科等の教育	スポーツ学科
(3)教職員	先生紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5)様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6)学生の生活支援	学生の一泊、就職先・キャリアアップ
(7)学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8)学校の財務	情報公開(財務)
(9)学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法  
URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

(別途、以下の資料を提出)  
\* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タケナカ ヒロシ	所属部署	
	氏名	竹中 宏	役職名	事務長
	所在地	〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21		
	TEL	06-6305-6592	FAX	06-6305-1692
	E-mail	takenaka@riseisha.ac.jp		

(備考)

- ・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	社会人が企業で働く上で身に付けている事が望ましいマナーを模擬演習形式で学ぶ	1前	30	2	○			○			○	○
○			ホームルーム	個別面談を定期的 to 実施し、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	12通	120	-				○		○		
○			ホームルーム	進路指導、学級経営を行い、楽しく過ごせる環境を作る。	12前	120	-				○		○		
○			サービス接遇マナー	社会人としての最低限のマナーを身に付け、ビジネスの現場で接遇として表現できるようにする。	1前期	30	2	○			○			○	
○			ビジネス実務マナー	社会人常識を身につけると同時に、就職・編入のための面接対策を意識しての授業を実施。	1後期	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザインⅠ	社会の第一線で活躍している方々の体験談、キャリア形成についての講義、グループワークを通じて、学校生活で学ぶべきことと社会で働く意義や関連性を考え、今後の自らのキャリアを考えるきっかけを作る。	1前	30	2	○			○		○		
○			キャリアデザインⅡ	卒業後の展望をある程度明確にし、そのために行わなければならない学生生活を自らデザインする	1後	30	2	○			○		○		
○			ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	60	4	○			○		○	○	
○			ビジネスマナーⅠ	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1前	30	2	○			○			○	○
○			ビジネスマナーⅡ	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1後	30	2	○			○			○	○
○			応接マナーⅠ	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	○
○			応接マナーⅡ	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	○
○			キャリアデザインⅠ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	1前	60	4	○			○		○		
○			ホームルーム	個別面談を定期的 to 実施し、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	12通	120	-				○		○		
○			イベント運営法Ⅰ	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するイベントを企画から運営までを行う。	1前	30	2			○	○		○		
○			イベント運営法Ⅱ	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するイベントを企画から運営までを行う。	1後	30	2			○	○		○		
		○	パソコン実習	ワード・エクセル・パワーポイントの基礎的な使用方法を学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
		○	キャリアデザインⅠ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
		○	キャリアデザインⅡ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
		○	ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	30	2				○		○	○	
		○	日本語表現Ⅰ	日本語の文章等を文字によって表記するための体系的な方法についてまなび、小論文等で自分の考えを表現できるようにする。	2前	30	2	○			○		○		
		○	日本語表現Ⅱ	自ら意見をまとめるうえで必要となる情報を主体的に収集し、課題解決に取り組む姿勢を身に付ける。また、自身でテーマを取り上げ、そのテーマに対しての論文作成を実践する	2後	30	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	公務員試験講座	公務員試験受験のための対策授業。	2後	30	2	○			○	○			
		○	実践英語Ⅰ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			
		○	実践英語Ⅱ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学ぶ。	2後	30	2	○			○	○			
		○	英会話Ⅰ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1前	30	2		○		○	○			
		○	英会話Ⅱ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1後	30	2		○		○	○			
		○	パソコン基礎Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	1前	30	2		○		○	○			
		○	パソコン基礎Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	1後	30	2		○		○	○			
		○	パソコン応用Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	2前	30	2		○		○	○			
		○	パソコン応用Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2前	30	2		○		○	○			
		○	パソコン応用Ⅲ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○	○			
		○	パソコン応用Ⅳ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○	○			
		○	ビジネス電話講座Ⅰ	ビジネスで用いる電話対応について学ぶ	1前	30	2		○		○			○	
		○	ビジネス電話講座Ⅱ	ビジネスで用いる電話対応について学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
		○	ビジネス文書講座Ⅰ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス文書講座Ⅱ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	秘書講座Ⅰ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	秘書講座Ⅱ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス実務講座Ⅰ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス実務講座Ⅱ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
	○		キャリアデザインⅡ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○	ビデオ編集法Ⅰ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1前	30	2		○		○			○	
		○	ビデオ編集法Ⅱ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1後	30	2		○		○			○	
		○	ビデオ編集法Ⅲ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
		○	ビデオ編集法Ⅳ	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2後	30	2		○		○			○	
		○	簿記初級Ⅰ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	簿記初級Ⅱ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	簿記初級Ⅲ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅰ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅱ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅲ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅠ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅡ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅢ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅣ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			解剖学Ⅰ	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○	○				
○			解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、どういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	1後	30	2	○			○		○			
○			解剖学Ⅲ	人体の構成について医学的に学ぶ。	1後	30	2	○			○			○		
○			スポーツ医学Ⅰ	内科的スポーツ障害についての医学的基礎知識を学ぶ。様々な障害がなぜ起こるのか、その発生機序、そして対処方法を理論的に学ぶ	1前	30	2	○			○				○	○
○			スポーツ医学Ⅱ	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着座しての講義だけでは無く、発生機序の理解を実習室等で、実際に体験しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う	1後	30	2	○		○	○				○	○
○			スポーツ生理学Ⅰ	ヒトは身体運動中にどのような生理的反応が起こるのか？運動と反射、運動と筋肉、運動とエネルギー代謝の関係を学ぶ	1前	30	2	○			○			○		
○			スポーツ生理学Ⅱ	運動が骨、関節、呼吸循環、体温調節、内分泌とどのような関連があるのか、どう影響するのかを学び、運動処方できる知識を学ぶ	1後	30	2	○			○			○		
○			スポーツ栄養学Ⅰ	5大栄養素についての理解を深め、食物の必要性と食習慣が身体に及ぼす影響を学ぶ	1後	30	2	○			○				○	
○			スポーツ心理学Ⅰ	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学などを学ぶ	1前	30	2	○			○				○	
○			スポーツ心理学Ⅱ	心理的コンディショニングがパフォーマンスに及ぼす影響を理解し、実際のスポーツ現場で生じる心理的現象に対応できる実践力を身につける	1後	30	2	○			○				○	
○			スポーツ指導論Ⅰ	指導者の役割を理解し、指導内容、指導活動、指導上の留意点を踏まえ、各専門種目の年間計画、日間メニューを作成する力を身につける。	1前	30	2	○			○			○		
○			トレーニング論	トレーニングの基本原理原則を理解し、筋活動の収縮様式、3大負荷条件をどのようにプログラムするのか？機能解剖学的な観点も踏まえ、クライアントの目的達成のためのトレーニング計画を作成する基礎を学ぶ	1前	30	2	○			○				○	
○			発育発達論	発育発達期の身体的、心理的特徴、ケガや病氣、そして中高年者や女性特有の障害について学ぶ。またコーディネーショントレーニングが理論的に発育発達にどう影響するのかを学ぶ	1前	30	2	○			○				○	
○			アスレティックリハビリテーションⅠ	アスレティックリハビリテーションの基礎を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○		
○			救急処置法	外傷時の患部固定法・運搬法、心肺蘇生法など救急処置の基本的知識を学び、フローチャートをもとに実践できる力を身につける	1後	30	2	○			○			○		
○			スポーツ経営学	日本におけるスポーツの役割と行政の動きを理解し、スポーツ産業を取り巻く提供事業の経営のあり方とマネジメントを現場の状況から多角的に考察し理解する	2後	30	2	○			○				○	
○			スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの役割・指導者の役割を理解し、今後の日本のスポーツ産業が人のライフスタイルにどのような影響を及ぼすのかを学ぶ	2前	30	2	○			○				○	
○			体力測定評価法	筋力、柔軟性、関節動揺弛緩性、アライメント、身体組成の測定方法・評価方法の手順を理解する。また整形外科的、内科的メディカルチェックを基に統計分析しフィットバックできる力を身につける	2前	30	2			○	○				○	
○			バイオメカニクス	身体の動きを物理的に理解・評価し、効果的な動きを理解する。	2前	30	2	○			○			○		



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ栄養学Ⅱ	トレーニング効果を高める食事とは何か？スポーツ活動における栄養の役割を理解し、各スポーツ種目のパフォーマンスアップに必要な栄養素、摂取方法、期分けについて学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーションⅡ	各傷害に対するリハビリテーションを学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			アスレティックリハビリテーションⅢ	アスレティックリハビリテーションのプログラミングを行う。	2前	30	2	○			○		○		
○			スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すための身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
○			スポーツメディカルⅠ	スポーツ医学を西洋的・東洋的にアプローチ方法が違う多角的な目線について学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			ゼミⅠ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2前	30	2		○		○		○		
○			ゼミⅡ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	30	2		○		○		○		
○			テーピングⅠ(足関節)	解剖学的観点から、傷害発生率が非常に高い足関節の内反捻挫のテーピング技術を学ぶ。機能性、巻く時間、見た目を重視する授業展開とする	1前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける	1前	30	2			○	○			○	○
○			トレーニング実習	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	1前	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・重さ・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	1通	60	4			○	○			○	○
○			コンディショニングⅡ	競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。	1後	30	2			○	○			○	○
○			体力測定評価実習	スピード・アジリティ・間欠的能力・有酸素能力といったフィールドテストを実践を通して学ぶ。また測定方法・評価方法を学び統計分析しフィードバックできる力を身につける	2後	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	2通	60	4			○	○			○	○
○			スポーツ実技Ⅰ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ実技Ⅱ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅲ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅳ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅴ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			ルール・レフリング	* ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 * 日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 * 国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 * 学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	1年 前期	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年 前期	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅡ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年 後期	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅰ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年 前期	30	2			○	○			○	○
○			トレーニング実技Ⅱ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年 後期	30	2			○	○			○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			トレーニング実技Ⅲ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年前期	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅳ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年後期	30	2			○	○			○	
○			エアロビクス	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。グループ発表を行うことを最終目標とする。	1年後期	30	2			○	○			○	
○			テーピングⅠ	各関節におけるテーピング技術の習得。正確さ・早さに重点を置き、実技テストの評価のみで課程を修業とする。各テーピングでの実技テストで及第点を取らない場合、テーピングⅠコースを修業と見做さない。	1年後期	30	2			○	○			○	
○			スポーツマッサージⅠ	運動器の機能、解剖のメカニズムを理解しスポーツマッサージの技能を実技によりマスターする。	2年前期	30	2			○	○			○	
○			スポーツマッサージⅡ	生徒同士で、施術者と患者を想定し、マッサージを行います。その中で、各部位にある筋肉を実際に触って覚え、筋肉ごとに適した刺激量・刺激方法の獲得を目指す。	2年後期	30	2			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅰ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅱ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅲ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅳ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅴ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅵ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅶ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技Ⅷ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅡ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1後	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅣ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2後	30	2			○	○			○	
○			トレーニングⅠ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1前	30	2			○	○			○	
○			トレーニングⅡ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1後	30	2			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニングⅢ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2			○	○		○		
○			トレーニングⅣ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2後	30	2			○	○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅰ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	1後	30	2	○			○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅱ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2前	60	4	○			○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅲ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2後	90	6	○			○		○		
		○	アスレティックトレーナー概論	アスレティックトレーナーの役割について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
		○	A T 演習	アスレティックトレーナー業界について学ぶ。	1前	30	2		○		○		○		
		○	コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ指導者基礎理論Ⅰ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて、基礎理論を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導者基礎理論Ⅱ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて応用理論を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導者としての基礎的な知識と実践を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
		○	トレーニング科学	動作改善指導に必要な着眼点と考え方を学び、現場での応用力を身に付ける。スポーツ障害発生の予防、技術・成績の向上に不可欠な様々なトレーニング効果を生む指導法を学ぶ	2通	60	4			○	○			○	○
		○	スポーツ医学Ⅲ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅳ	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身に付ける。	2前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅴ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2後	30	2	○			○			○	
		○	トレーナー特論	競技種目を体力特性、動作特性、競技特性など多方面から理解し、アスレティックトレーニングの指導時に実践できる知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ栄養学Ⅲ	スポーツの現場で、実際に選手が必要な栄養をとるために何をどれくらい食べればよいかを指導できる知識と技術を身に付ける	2後	30	2	○			○			○	
		○	身体評価学	全身から各部位へ視診・触診でアライメント評価して傷害を予測し、さらに的確にストレステストを行って傷害を確定できる能力を身に付ける。	1前	30	2			○	○			○	
		○	トレーニング指導者論	トレーニング指導者認定試験模擬問題集を参考に試験対策をおこなう。	2後	30	2	○			○			○	
		○	生涯健康論	中年期における生活習慣病予防、高齢期における介護予防（老年症候群予防）などに関連するトピックスをとりあげ、支援に必要な基礎知識と実践方法について学習する	2前	30	2	○			○			○	
		○	運動処方論	生活習慣病、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、認知機能向上に対する適切な運動療法について理解する	2後	30	2	○			○			○	
		○	健康運動実践指導者試験講座	健康運動実践指導者筆記試験に向けて、テスト形式で出題と解説を繰り返しレベルアップを図る	2後	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	ボディメイク理論	食べる力を高めることで心と体の両面からの健康を追究し、クライアントの目的に応じた食育指導の実践能力を高める	2後	30	2	○			○			○	
		○	CPT試験講座	NSCA-CPT試験に向けて、パーソナルトレーナーの基礎知識全般を各単元に分け、問題形式で試験への対策を目的とする	1前	60	4	○			○			○	
		○	プログラミング	クライアント個々の現状を把握して、どのようなトレーニングが適切か、どれくらいのボリュームで行うべきかを分析し、実際にトレーニングメニューを作成する	2後	30	2				○			○	
		○	パーソナルトレーナー概論	個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成するため、動作分析・生理学的分析・傷害分析の理解を深め、解剖学的・運動生理学的観点から個々に必要なトレーニング種目や負荷条件の設定方法を学	1後	30	2				○			○	
		○	運動動作療育	ノルディックウォーキングやニュースポーツなどの高齢者スポーツを、運動の特性や効果を理解した上で実践活動し体感する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	介護予防運動概論Ⅰ	介護予防のシステムや成り立ち、仕組みを理解し、運動が介護予防にどうつながるのかを学ぶ。また、運動面だけでなく様々な要因からサポートする必要性があることを理解する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	介護予防運動概論Ⅱ	高齢者特有の疾患、運動特性を理解し、個々に適した運動プログラムを作成できる力を身に付ける	2前	30	2	○			○			○	
		○	障がい者スポーツ概論	障害の種類や程度を理解し、それぞれに適したスポーツやレクリエーションを提供できる仕組みや社会環境について学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	エアロビクス理論	現場での様々な参加者に応じた、安全で効果的な有酸素運動のプログラム作成と指導が出来るように、エアロビクスの理論を通して身体の運動メカニズム	2通	60	4	○			○			○	
		○	水泳特論	公認水泳指導員資格取得のための水泳基礎学を学ぶ。水泳の歴史や、安全対策、4泳法の指導法を理	2後	30	2		○		○			○	
		○	フィットネスマネジメント論	フィットネス業界の現状を知り、今後の業界発展のために、どのようなマネジメントが必要なのか？をディスカッション方式で学び、就職後の企画運営力を高める	2前	30	2		○		○			○	○
		○	解剖学Ⅰ	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基礎知	1前	30	2	○			○			○	
		○	解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、こういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
		○	スポーツ医学Ⅱ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ生理学Ⅰ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ生理学Ⅱ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ心理学Ⅰ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1前	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	スポーツ心理学Ⅱ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導論Ⅰ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についての理解を深める	2前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についての理解を深める	2後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ経営学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2後	30	2	○			○				○
		○	スポーツ社会学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2前	30	2	○			○				○
		○	トレーニング論	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
		○	発育発達論Ⅰ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだ完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。	1前	30	2	○			○				○
		○	発育発達論Ⅱ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだ完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。		30	2	○			○				○
		○	生涯学習論・運動処方論	健康増進、体力の維持増強や治療の目的をもって身体運動の強度、持続時間、頻度などを示すことができるようになる。	1前	30	2	○			○				○
		○	バイオメカニクス	生物の構造や運動を力学的に探求したり、その結果を応用したりすることを学ぶ	1前	30	2	○			○				○
		○	スポーツ概論Ⅰ	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論Ⅱ	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論Ⅲ (特講)	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論Ⅳ (特講)	未開講		30	2								
		○	戦術論Ⅰ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について	1全	60	4	○			○				○
		○	戦術論Ⅱ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について	2全	60	4	○			○				○
		○	CPT概論	CPT合格を目指し、教科書に沿った内容でテストに出題されるところをおさえていく。基本的には、毎回予習課題を出し、教科書を見る癖をつけるようにする。ビデオ問題に向け、実技も実施することで動きを確認し、対策を行う。 テストの対策だけでなく、現場でも実践できるような技術も勉強する。	1年後期	30	2	○			○				○
		○	CPT演習	*ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 *日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 *国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 *学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	2年前期	30	2	○			○				○
		○	保育士演習	資格挑戦	1年後期	60	4	○			○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	介護初任者研修演習	資格挑戦	1年後期	30	2	○			○			○	
		○	幼児体育Ⅰ・Ⅱ	幼児の身体的特徴、成長曲線を理解した上での体育活動について学ぶ	1後	60	4	○			○				○
		○	幼児体育Ⅲ・Ⅳ	未開講		60	4								
		○	スポーツメディカルⅡ	未開講		30	2								
		○	アスレティックリハビリテーション	社会復帰のレベルからさらに競技復帰レベルまでを考えて行っていくリハビリテーションを学ぶ	1後	30	2	○			○				○
		○	テーピング	スポーツ選手が負傷を予防、もしくは負傷した部位の悪化を防止するために、関節、筋肉などにテープを巻いて固定する方法を学ぶ	1後	30	2	○			○				○
		○	ロジカルコミュニケーション	「明快でわかりやすく」かつ「論理的で正確な」コミュニケーションのこと。このスキルの身につけ	1前	30	2	○			○				○
		○	クラブマネジメントⅠ	クラブチームを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2前	30	2	○			○				○
		○	クラブマネジメントⅡ	クラブチームを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2後	30	2	○			○				○
		○	スポーツメイスⅠ	スポーツを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
		○	スポーツメイスⅡ	スポーツを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1後	30	2	○			○				○
		○	トレーナー特論Ⅰ・Ⅱ	トレーナーに関する知識・技能を幅広く学ぶ	12全	60	2	○			○				○
		○	トレーナー特論Ⅲ・Ⅳ	トレーナーに関する知識・技能を幅広く、深く学ぶ	12全	60	2	○			○				○
		○	テーピングⅡ	スポーツ現場で使えるテーピングの応用を学ぶ。	1後	30	2			○	○				○
		○	CFSC	ファンクショナルトレーニングの哲学・理論・実技を習得する。	1後	30	2			○	○				○
		○	物理療法概論	コンディショニング、アスレティックリハビリテーションで使われる物理療法などを実際に体験する。	1後	30	2			○	○				○
		○	アスレティックリハビリテーションⅣ	アスレティックリハビリテーションのプログラミング内容を指導する。	2後	30	2		○		○				○
		○	触診Ⅰ	骨・筋等の解剖学の知識を中心に整理し、骨指標、筋の形状や走行、硬さ等を確認し習得を目指す。	1後	30	2			○	○				○
		○	触診Ⅱ	骨指標および体表から確認できる筋群の触診の実技を中心に進める。	2前	30	2			○	○				○
		○	フィットネスエクササイズ	健康体力増進のためのエアロビックダンスエクササイズを正しい姿勢、正しい動きで実践できる力を養う。そして、効果的で安全なプログラム作成の基礎	1前	30	2			○	○				○
		○	水泳	競泳4泳法において、完成までの一連のプログラムを実践することで水泳理論を学ぶ。また水中運動に関わる様々なプログラムを体験する	1通	60	4			○	○				○
		○	ストレッチ&コンディショニング実習	柔軟性トレーニング・スタビリティトレーニング・プライオメトリクストレーニングの理論を理解し、実践を通して運動プログラムの手法を学ぶ	1後	30	2			○	○				○
		○	ピラティス実践	ピラティスエクササイズの理論を理解し、まず自分自身が見本を見せられる動きを習得する。その後、個々のクライアントに対してのプログラミングを学び、指導・コミュニケーションスキルを高める	2通	60	4			○	○				○
		○	グループ指導実践	指導現場における多様化されたグループ指導プログラムに対応するための授業。グループエクササイズ指導に必要なホスピタリティ、リーダーシップを理解し、健康成人・発育、発達期・高齢者など対象レベルに応じたプログラムの作成、実践を行う	2後	30	2			○	○				○
		○	パーソナルトレーナー実技	未開講		30	2								
		○	傷害評価法	身体の各関節におけるROM、MMT、SpecialTestの基本的手法、流れを学び傷害評価に必要な手技を学ぶ	2前	30	2			○	○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必修	選択 必修	自由 選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
		○	ファンクショナルトレーニング実践	移行的動作評価(オーバーヘッドスクワット・シングルレッグスクワットetc)の目的、動作手順、評価方法・評価基準を理解し、クライアントの動作の問題点を正しく抽出してできる手法を学ぶ	2前	30	2			○	○		○			
		○	スポーツマッサージ	マッサージの目的、効果を理解し、軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法などの様々な手技と手順を実践を通して習得する	2前	30	2			○	○		○			
		○	福祉レクリエーション	高齢者施設の対象者に対して、ゲームや歌、集団遊びを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	2前	30	2			○	○		○			
		○	メディカルトレーナー実践	高齢者施設への介護予防運動現場実習に向けて、運動プログラムの企画、運営、参加者募集方法などを考案し、実践指導に向けての準備を行う。また実習先へ企画のプレゼンテーションを行う	2前	30	2			○	○		○			
		○	介護予防運動実践	介護予防運動の基本計画をもとに、運動プログラムの実践活動を行う。その活動の中で修正を加え、オリジナルプログラムを作成する	2後	30	2	○			○			○		
		○	レッドコード演習	レッドコードの目的、効果を理解し、機能的な神経筋トレーニング、スポーツパフォーマンスの向上、リハビリテーションといった目的に対して、効果的な運動プログラムを作成できる力を身に付ける	2後	30	2		○		○		○			
		○	水泳指導法	水泳指導員に必要な競泳4泳法の指導テクニックを学ぶ。各泳法でよく見られる問題点に対する改善方法、指導ポイントを実践を通して学ぶ	2通	60	4	○			○			○		
		○	レクリエーション(生涯スポーツ)	子どもに対してゲームや歌、集団遊びやスポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	1後	30	2	○			○			○		
		○	幼児体育実践Ⅰ	未開講		30	2									
		○	幼児体育実践	キッドビクスプログラムの中の根幹であるアクティビティ・プレイ&フィットネスエクササイズについて、自身でプログラムを体感し、子どもたちへのフィットネスエクササイズプログラム作成の基礎を学ぶ	2通	60	4	○			○			○		
		○	エアロビクス理論	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。	2通	60	4	○			○			○		
		○	スポーツ指導法(バレー)	未開講		30	2									
		○	こどもと体育	遊びフィットネスの運動プログラムを作成し、からだ道具を使ったコラボレーションプログラムをプレゼンテーションできる力を身に付ける	2前	30	2		○		○			○	○	
		○	スタジオエクササイズ実践	健康・体づくりを目的とした様々なエクササイズを体験し、それぞれの運動の特徴や内容を理解するとともに、指導者として必要な体力の向上を目指す	1通	60	4		○		○			○		
		○	アクアウォーキングエクササイズ	水の特性と水中運動の効果を実技を通じて理解を深める。水中でのウォーキングエクササイズ・レジスタンスエクササイズの指導テクニックを身に付ける	1後	30	2		○		○			○		
		○	アクアエクササイズ	アクアダンスの基本動作と強度変換方法を理解し、実践を通してコンディショニングプログラムの作成・指導テクニックを学ぶ	2前	30	2		○		○			○		
		○	エアロビクス実技	常に指導現場の現状・新しい情報を取り入れ、幅広い年齢層の目的に応じたエアロビクス指導技術を身に付ける	2通	60	4			○	○			○		
		○	スポーツ実技Ⅵ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○			○		
		○	スポーツ実技Ⅶ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○			○		
		○	スポーツ実技Ⅷ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○			○		



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	スポーツ実技Ⅹ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○		
		○	スポーツ実技Ⅹ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○		
		○	指導法Ⅰ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
		○	指導法Ⅱ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
		○	指導法Ⅲ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
		○	指導法Ⅳ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
		○	指導法実践Ⅰ	スポーツ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2前	60	4			○	○				○
		○	指導法実践Ⅱ	スポーツ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2後	60	4			○	○				○
		○	審判法Ⅱ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1全	120	8			○	○				○
		○	審判法Ⅲ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	2全	60	4			○	○				○
		○	チーム戦術Ⅰ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○		
		○	チーム戦術Ⅱ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○		
		○	チーム戦術Ⅲ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○		○		
		○	チーム戦術Ⅳ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○		○		
○			現場実習Ⅰ	学校指定のパーソナルジム・介護予防運動施設・フィットネスジム等の健康増進施設にて120時間	1通	60	4			○	○				
○			現場実習Ⅱ	学生個々で実習希望先を決め、個々の指導技術レベル、実習経験をもとに15日間の指導実習を行う	2通	60	4			○	○				
○			社会体育実習	1年次はキャンプ・スキー・ピラティス研修から選択、2年次はキャンプ・スノーボード・ヨガ研修から選択し、各指導者資格取得を目指す	12通	120	8			○	○				
○			基礎実習	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○		
○			専門実習	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○		
		○	現場実習Ⅲ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2前	60	4			○		○	○	○	
		○	現場実習Ⅳ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2後	60	4			○		○	○	○	
		○	ルール・レフリング実習Ⅰ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1前	30	2			○	○		○		
		○	ルールレフリング実習Ⅱ	*ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。	2年後期	30	2			○		○		○	
		○	運営実習Ⅰ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。自分で考え行動する力をつける。	1年	30	2			○		○		○	
		○	運営実習Ⅱ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。自分で考え行動する力をつける。	2年後期	30	2			○		○		○	
		○	現場実習Ⅰ	インターン活動で、会社に自分をアピールするのと同時に様々なスキルを獲得する。	1年後期	30	2			○		○		○	
		○	現場実習Ⅱ	インターン活動で、会社に自分をアピールするのと同時に様々なスキルを獲得する。	2年後期	30	2			○		○		○	
		○	指導者実習Ⅰ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○	
		○	指導者実習Ⅱ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○	
		○	海外研修	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	2全	30	2			○		○	○		
		○	基礎実習Ⅱ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○		
		○	基礎実習Ⅲ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○		
		○	基礎実習Ⅳ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○		
		○	専門実習Ⅱ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	60	4			○		○	○		
		○	専門実習Ⅲ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○		
		○	海外研修Ⅰ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	12全	30	2			○		○	○		
		○	海外研修Ⅱ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	12全	30	2			○		○	○		
合計				263 科目						1860単位時間(155 単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。また、卒業要件については、規定の出席率をみたし、指定された単位数を修得し、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとする。	1 学年の学期区分	前期・後期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

(別紙様式 2 - 1)

実習・演習等において連携する企業等一覧

(文化・教養専門課程スポーツ学科)

番号	名称	位置(所在地)	授業科目名	選任理由
1	身体運動塾	大阪府泉大津市旭町9-4	トレーニング実技Ⅰ トレーニング実技Ⅱ	田中氏は、『カラダを変える』『動きを変える』をコンセプトに身体運動塾を立ち上げ、アスリートから健康を目的に運動される方まで、幅広い年代、目的に対応したグループ指導そして個人指導を実践されている。この経験から、各種トレーニングの指導法、特殊器具や自荷重によるトレーニングテクニック、そしてトレーニングプログラムの立案に至るまで、その現場経験を生かしたアドバイスをいただくために選考した。
2	スポーツインテリジェンス	大阪府大阪市北区中津1-2-18	スポーツ医学Ⅱ コンディショニングⅠ・Ⅱ	アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナーを派遣する会社として、これまで数々の実績を残しており、パーソナルトレーナーに関する最新の知見が得られる為。

(留意事項)

- 1 企業等毎に通し番号を付してください。
- 2 実習・演習等の実施にあたり連携している企業等(実施要項の3(3)の要件を満たすものに限ります。)を全て列記してください。
- 3 記入の仕方は別添3「専修学校の専門課程における職業実践専門課程の認定に関する規定」に関する記入要項を参照してください。

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(文化教養専門課程スポーツ学科)

授業科目名	トレーニング実技 I	授業時数又は単	4単位
実施期間	1年通期(前期4月～7月 後期9月～12月)		
実習・演習等の目的及び概要	目的は、筋肉の機能・関節の構造等からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム、重量、回数、セット数、スピードなどの変数の違いによる効果の特徴を実践を通して学ぶ。		
企業等との連携の基本方針	実際の現場で指導されている、各種トレーニング機器を用いてのトレーニングテクニックを授業に取り入れ、様々なクライアントに対応できるパーソナルトレーナーを育成することを連携の基本方針とする。		
企業等との連携内容	各種トレーニング種目を正確なフォームで実践できる指導テクニックを習得し、クライアントに対してのトレーニングプログラムの作成方法の基礎を身につける授業展開とする。		
学修成果の評価方法	各種トレーニング種目を正しいフォームで実践できるか、また、そのトレーニング種目をどのようにプログラムに導入するのかを実技、筆記試験を交え総合的に評価する。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1回目	学内オリエンテーション	トレーニングルーム	
2～3回目	マシントレーニングに関する基本的知識について学ぶ	トレーニングルーム	
4～5回目	フリーウェイトに関する基本的知識について学ぶ	トレーニングルーム	
6～28回目	部位別のウェイトトレーニングについて学ぶ。(胸・背・脚・肩・腕・体幹)に分けて各部位ごとの各種トレーニングの動作テクニックを学ぶ。	トレーニングルーム	
29～30回目	期末試験と振り返り	トレーニングルーム	
連携する企業等	身体運動塾		

(留意事項)

企業等と連携する授業科目(実施要項の3(3)の要件を満たすものに限り、)毎に作成するこ

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(文化教養専門課程スポーツ学科)

授業科目名	トレーニング実技Ⅱ	授業時数又は単	4単位
実施期間	2年通期(前期4月～7月 後期9月～12月)		
実習・演習等の目的及び概要	目的は、1年次に習得した各部位のトレーニング種目を指導プログラムに導入するための応用テクニックを学ぶ。また、アスリートに特化した様々なトレーニングドリルの実際を実践を通して学ぶ。		
企業等との連携の基本方針	実際の現場で指導されている、クライアントの目的に応じた指導テクニック、プログラミングの実際を授業に取り入れ、様々なクライアントに対応できるパーソナルトレーナーを育成することを連携の基本方針とする。		
企業等との連携内容	クライアントの目的に応じたトレーニングのプログラミング、各種トレーニング種目の指導テクニックを習得し、クライアントに対して正しく効果的な運動プログラムを処方できる力を養うための授業展開とする。		
学修成果の評価方法	各種トレーニング種目を正しく指導できるか、また、目的に応じたトレーニングプログラムを作成実践できるかを実技、筆記試験を交え総合的に評価する。		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1回目	学内オリエンテーション	トレーニングルーム	
2～7回目	1年次に学んだ各部位のトレーニング種目の指導テクニックを学び、プログラミングする際の応用テクニックを学ぶ。	トレーニングルーム	
8～21回目	プライオメトリクスドリル、バランストレーニング、アジリティドリルなどアスリートに対しての特殊トレーニングの実際を学ぶ。	トレーニングルーム	
22～28回目	トレーニング計画の実際を学ぶ	トレーニングルーム	
29～30回目	期末試験と振り返り	トレーニングルーム	
連携する企業等	身体運動塾		

(留意事項)

企業等と連携する授業科目(実施要項の3(3)の要件を満たすものに限り、)毎に作成するこ

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(文化教養専門課程スポーツ学科)

授業科目名	スポーツ医学Ⅱ	授業時数又は単	30時間2単位
実施期間	1年後期(9月～12月)		
実習・演習等の目的及び概要	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着座しての講義だけでは無く、発生機序の理解を実習室等で、実際に体現しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う		
企業等との連携の基本方針	トレーニング指導やトレーナー、トレーニングコーチ派遣企業の強みである身体における強化方策のノウハウを生かし、テキストの詰め込みでは無く、専門的な傷害例を多く盛り込みながら授業を進める		
企業等との連携内容	着座しての講義だけでは無く、実習室を有効活用し、発生機序の理解を実際に体現しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う		
学修成果の評価方法	学期末に行う学科試験		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1～2回	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身につける。	教室	
3～5回	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身につける。	教室	
6～8回	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身につける。	教室	
9～11回	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	教室・実習室	
11～14回	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	教室・実習室	
15回	期末テスト	教室・実習室	
連携する企業等	スポーツインテリジェンス株式会社		

(留意事項)

企業等と連携する授業科目(実施要項の3(3)の要件を満たすものに限り)毎に作成するこ

(別紙様式2-2)

企業等と連携した実習・演習等

(文化教養専門課程スポーツ学科)

授業科目名	コンディショニング I・II	授業時数又は単位数	30時間・2単位 30時間・2単位
実施期間	2017/4/10-7/8 9/1-12/9		
実習・演習等の目的及び概要	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける。競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。		
企業等との連携の基本方針	担当教員との打ち合わせと調整を重視し、履修学生の学修状況に応じて、授業内容の変更を行う。また、担当科目の学修状況だけでなく、他の科目の学修状況や性格など多角的に学生情報を共有し授業を進めていく。		
企業等との連携内容	スポーツインテリジェンス株式会社より派遣していただいている川上先生は、ソフトテニス全日本代表のトレーナーをされている日本トップクラスのトレーナーである。その先生より、最先端のコンディショニング方法(主にストレッチ)を学ぶ。授業期間中は、担当教員と綿密に打ち合わせを行い、学修状況に応じて授業が行えるように相互の情報共有を行う。		
学修成果の評価方法	学期末に行う学科試験および実技試験		
実習・演習等計画			
日程	実習・演習等の内容	実施場所	
1回目	競技力向上を目指したコンディショニングの方法と実際①	履正社医療スポーツ専門学校 トレーニングルーム	
2~3回目	競技力向上を目指したコンディショニングの方法と実際②	履正社医療スポーツ専門学校 トレーニングルーム	
4~5回目	ストレッチ実技① スタティックストレッチ	履正社医療スポーツ専門学校 トレーニングルーム	
6~28回目	ストレッチ実技② ダイナミックストレッチ	履正社医療スポーツ専門学校 トレーニングルーム	
29~30回目	ストレッチ実技③ バリスティックストレッチ	履正社医療スポーツ専門学校 トレーニングルーム	
連携する企業等	スポーツインテリジェンス株式会社		

(留意事項)

企業等と連携する授業科目(実施要項の3(3)の要件を満たすものに限り)毎に作成すること。

## 平成29年度 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由書

No	委員の名前	所属	任期	種別	選任理由
1	西脇 雅人	大阪工業大学 団法人日本体力医学会 一般社	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	②	一般社団法人日本体力医学会は、身体運動による健康の維持・増進を意図した医・科学的研究を推進している学術団体で、本校教員も講習会等に参加。西脇先生は、これまでに健康・スポーツ分野に関する数々の論文を発表するだけでなく学会でのシンポジストも行っておられることから学術的な知識が非常に高く、本校教員が担当する授業(スポーツ生理学)において数々のアドバイスを頂いている。また、高齢者に対する運動指導を行う社会貢献活動も積極的に行われており、スポーツ福祉分野に関しても知識と経験を有している。学術的な知識や社会貢献活動は、健康スポーツ分野で社会貢献する人材育成を教育理念に掲げている本校との関係が密であることから委員に選任した。
2	梅原 哲朗	株式会社 Toughrit	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③	株式会社 Toughritには、本校スポーツ学科の学生を実習生として受け入れていただき、健康増進施設への就職を目指す学生に対して、フィットネス業界を取り巻く環境の変化に対応し、施設のマネジメント力を高めるテクニックを伝授していただいている。梅原氏は、地域密着型のフィットネス施設、パーソナル施設を経営し、関西圏のフィットネス施設へ人材派遣もされている。また、同系列の専門学校の経営アドバイザーも務めているため、業界の動向や他校との教育プログラムの違いなど、本校本学科の発展に寄与していただける人材であるため選任した。
3	池内 勇太	株式会社 兵庫プロバスケットボールクラブ	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③	株式会社 兵庫プロバスケットボールクラブとは業務提携しており、本校学生を実習生として受け入れていただき運営実習や企業研修・インターンシップを実施している。池内氏はスポーツビジネス・マネジメントに関する知識を持ちプロスポーツの現場で実践し、Bリーグ1部昇格を成し遂げた。GMとしての手腕に定評があり、業界に関する最先端の知識を有しているため企業等委員に選任した。
4	釜谷 等	履正社医療スポーツ専門学校 校長			内部委員
5	釜谷 一平	履正社医療スポーツ専門学校 副校長			内部委員
6	狩野 祐司	履正社医療スポーツ専門学校 AT統括者			内部委員
7	足立 麻由佳	履正社医療スポーツ専門学校 ATコース長			内部委員
8	大江 信一郎	履正社医療スポーツ専門学校 スポーツGM			内部委員
9	浅村 典正	履正社医療スポーツ専門学校 コース長			内部委員
10	小田 啓之	履正社医療スポーツ専門学校 教務主任			内部委員
11	竹中 宏	履正社医療スポーツ専門学校 事務長			内部委員

## ○ 学科ごとに作成すること

## ○ 委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

## ○ 選任理由の欄には、以下の(ア)及び(イ)に該当する具体的な内容を必ず記載すること。

- (ア)推薦学科との関係性(推薦学科の専攻分野と委員の所属する業界団体や企業等の業務内容、相互の関係性等)
- (イ)当該委員の当該組織内における役割



## 平成29年度 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書

No	委員の名前	所属	任期	種別	選任理由
1	伊藤 久夫	公益社団法人 大阪府鍼灸マッサージ師会	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	本校スポーツ学科を卒業した学生は、医療の資格を取得する学生が多数おり、本校は大阪府鍼灸マッサージ師会会員であることから、鍼灸あんまマッサージ師会の公益社団法人である全国組織及び大阪府組織の会長をされており、臨床鍼灸だけでなく、スポーツ活動における鍼灸治療の有効性などを業界団体から視線で、スポーツ学科の助言や提案を頂くために選考した。(27年度から委員として協力いただいている)
2	安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	スポーツ学科では障害者スポーツ指導関連の資格を取得する為の学習をしている。車いすや、松葉杖など、障がい者への補助具や自助具の販売会社で勤務されており、理学療法や機能訓練などの実習や教育に対してアドバイスを受けている。車いすの障がい者スポーツなどのクリエイターでもあり、障がい者スポーツ全般に対しての視点からも医療課程、スポーツ課程を問わず、情報の提供を受けるために選考した。(27年度から委員として協力いただいている)
3	野柳 俊英	やなぎ整形外科クリニック	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	スポーツ学科の卒業生は整形外科への就職も視野に入れ、整形外科関連の学習も取り入れている。やなぎ整形外科クリニックの院長。本校柔道整復学科の卒業生が5名勤務している。野柳先生は、医師、看護師、理学療法士、柔道整復師、トレーナーの他職種連携を重視されており、柔道整復師にも運動器リハビリテーションセラピスト資格を取得させ、柔道整復師が訪問リハビリテーションへの活動も実施しております。現在社会に要請される、医療介護融合政策への取り組みと理解もされており、卒業生の幅広い活躍が期待できる施設長のため選考した。
4	中谷 功	なかたに鍼灸整骨院	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	スポーツ学科の卒業生は治療院に就職している学生が多く、鍼灸整骨院を開業されており、鍼灸や接骨治療の経験をもとに助言や提案をいただくために選考した。また、地域の少年野球の指導者も兼務されており、スポーツ指導者としての立場からの意見も期待している。(27年度から委員として協力いただいている)
5	萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	スポーツ学科では医療機器や物療機器を使用する授業があり、柔整、鍼灸、理学療法やトレーナー業務に関わる医療機器や物療機器の販売をされており、スポーツ施設、接骨院や鍼灸院、リハビリテーションを標榜するクリニックなどへの販売実績から、各施設が患者、利用者にとどのような機器を活用し医療サービスを提供しているのか、その動きや実績などからスポーツ関連アドバイザーとしてご意見を頂戴するために選考した。(27年度から委員として協力いただいている)
6	松尾 和弥	メディカルケア福田 デイサービス福	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員	スポーツ学科では健康運動実践指導者の資格取得を目指しており、卒業生の勤務先であり、機能訓練特化型のデイサービスの管理者をされており、トレーナー、柔道整復師、理学療法士を基礎資格にした、機能訓練指導員を管理している。集団運動指導や訓練では、医療資格者だけでなくスポーツ関連資格の健康運動実践指導者などの指導に当たっており、医療職者だけでなく幅広い指導者を雇用されており、他職種連携や協働の観点からのご意見、ご指導を頂けることを期待し選考した。(27年度から委員として協力いただいている)

○ 学科ごとに作成すること

○ 委員の種別の欄には、学校関係者委員として選出された理由となる属性を記載してください。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

○ 企業等委員の選任理由の欄には、以下の(ア)及び(イ)に該当する具体的な内容を必ず記載すること。  
(ア)推薦学科との関係性(推薦学科の専攻分野と委員の所属する業界団体や企業等の業務内容、相互の関係性等)  
(イ)当該委員の当該組織内における役割

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
履正社医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	釜谷 等	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人履正社	大正11年4月1日	釜谷 行蔵	〒532-0024 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ学科	平成6年文部科学省 告示第84号
学科の目的	本校は教育基本法及び学校教育法ならびに関係諸法令に従い、文化・教養専門課程を設置し、その理論と実技を授け活力のある人材を育成し、社会環境の向上に寄与し、もって人類の福祉に貢献する人物の養成を目的とする。		
認定年月日	平成 年 月 日		
修業年限	昼夜	講義	演習
2	1,860時間	1,350時間	90時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数
280人	300人	4人	25人
学期制度	■前期 : 4月1日～9月30日 ■後期 : 10月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験、課題遂行等より評価 (優(80点以上))
長期休み	■学年始 : 4月1日 ■夏季 : 8月上旬～8月下旬 ■冬季 : 12月下旬～1月上旬 ■春季 : 3月中旬～4月初旬	卒業・進級 条件	各学年において履修すべき科目の所定の単位修得を認定されたものは進級を認める。また全ての指定された単位数を取得し、規定の出席率を満たした者に判定会議の審査にて校長が認定し、卒業証書を授与する。
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任より定期的に面談及び家庭訪問を実施し、状況把握と改善に努める。	課外活動	■課外活動の種類 体育祭の実行委員会・24時間マラソン運営・スキー、スノーボード実習・トレーナー研修 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)
就職等の 状況※2	<p>■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 主な就職先、業界等については、チーム(プロ・アマ)・スポーツ関連団体・企業、施設・福祉介護施設や民間企業等多岐に渡る。</p> <p>■就職指導内容 1年次後期に業界研究の一環として進路ガイダンスを実施。キャリア教育として社労士を招いての講演を実施するなど労働環境に関する知識を深める教育を実施。現場実習(インターンシップ)を積極的に取り入れるなど</p> <p>■卒業者数 162 人 ■就職希望者数 116 人 ■就職者数 87 人 ■就職率 : 75 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 54 %</p> <p>■その他 ・進学者数: 11人 ・専門分野のより高度な教育を望む声が高く、体育大学や体育学部のある大学を選ぶ傾向が強い。一方でスポーツマネジメントに興味のある学生は、異分野ではあるが経済・経営学部を受験している。</p> <p>(平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)</p>		
中途退学 の現状	<p>■中途退学者 44 名 ■中途退学率 13.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者326名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者282名(平成29年3月31日卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更・経済的理由・家庭の事情・病気</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談や、保証人を交えた三者面談を何度も行い、中退防止に努めている。場合によっては本校専属のカウンセラーにも相談に乗って頂いている。</p>		
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 履正社特別奨学金・特待生制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>		
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>		
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.riseisha.ac.jp/">http://www.riseisha.ac.jp/</a>		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者を含みます。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留學生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科の授業内容及びカリキュラム策定の基本方針において、本校に入学してくる半数以上の生徒は、高校で体育系の部活動を経験しており、その大半が部活動での負傷が原因で継続を断念したり、周囲で同様の事例を見聞したことのおかげが動機になり、入学してくる。我が国の高校部活やクラブチームでは、国家免許を所有した専門的な治療家、トレーナーが少なく、資格を有さない者が未熟な処置、トレーニングで選手に影響を与える事は少なくない。現場からも専門家派遣の要請が多く、そのような社会の需要に応えるべく、企業等と連携し、特色的な授業内容とカリキュラムを策定する。

具体的には、生徒が目指す高校部活動へトレーナーとして派遣している接骨院、スポーツ整形クリニックでの、臨地研修や体験研修の実施、就職斡旋など、本人達が目指すべき姿を実際に観察させる。

また、当該分野にて活躍活動をしている講師や実習先指導者、卒業生の勤務先院長などと、普段から連絡を密にし、情報の交換を行う。2020年に向けて、スポーツ振興が活発になり、スポーツ外傷によるケガも増加すると見込んでいる。スポーツ種目は年々、また月ごとに変化しているため、その患者にうまく対応できる、同じ種目経験者の派遣要請や、就職紹介などにも応え、今後増加する社会の変化や要請を教育に落とし込んでいく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学校組織図(文化教養専門課程)校務分掌の中に、独立した外部委員会として位置付けた。カリキュラム編成大綱化が導入され以降、建学の理念の基づく学校の特色や方針を授業に反映させているが、教育課程編成委員会を独立した組織と定義し、今後は企業(スポーツ関連機関など)の声や意見を取り入れ、スポーツ産業の変革に適應できるよう、カリキュラムを編成していきたい。具体的にはスポーツ学科担当教員による週例会議でカリキュラム編成会議を実施し学科長会議を経て教育課程編成会議にて議論を行う。最終は正副校長会議で決裁される

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
西脇 雅人	大阪工業大学 一般社団法人日本体力医学会	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	②
梅原 哲朗	株式会社 Toughrit	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③
池内 勇太	株式会社 兵庫プロバスケットボールクラブ	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	③
釜谷 等	履正社医療スポーツ専門学校 校長	内部委員	
釜谷 一平	履正社医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	
狩野 祐司	履正社医療スポーツ専門学校 AT統括者	内部委員	
足立 麻由佳	履正社医療スポーツ専門学校 ATコース長	内部委員	
大江 信一郎	履正社医療スポーツ専門学校 スポーツGM	内部委員	
浅村 典正	履正社医療スポーツ専門学校 コース長	内部委員	
小田 啓之	履正社医療スポーツ専門学校 教務主任	内部委員	
竹中 宏	履正社医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(5月・9月)

(開催日時)

第1回 平成29年5月16日 18:00～

第2回 平成29年9月5日 18:00～

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成会議の中で委員の先生方から「仕事に対するイメージが無いまま就職してしまうと、早期に離職するケースが多い為、学生時代からの積極的なインターンシップへの参加は、卒業後に即戦力として働くには非常に重要なことである」という貴重な意見を踏まえて、長期のインターンシップを授業の一環として取り入れることや今よりも更に企業の方々との連携を取りながら実技・実習に関する内容の授業を積極的に行うようにカリキュラムの見直しを図る。

(別途、以下の資料を提出)

- \* 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- \* 教育課程編成委員会等の規則
- \* 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- \* 学校又は法人の組織図
- \* 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校では、スポーツ業界において必要とされる知識・技術に加え社会人としての礼儀作法の習得を目指した職業教育の実施を目的とし、スポーツトレーナー・パーソナルトレーナーとかかわりの深いトレーナー業界フィットネス業界、また競技系スポーツチームと連携し実践的な職業教育を行う。卒業後、各現場にて即戦力となる人材を養成するにあたり、授業開始前に担当教員と綿密に打ち合わせを行い、授業内容の決定だけでなく、履修学生の学修状況や性格、得意不得意などの学生情報を共有した後に授業を行っていただくようにしている。授業においては、専門的な知識の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の養成も行っている。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 連携している企業の方より実際の現場に必要な知識・技術を伝授していただく。また、業界の現状を享受し必要なトレーニングプログラムやクライアントとの接し方を実戦形式で身に付くように指導を受ける。学期末には企業の先生方より学習評価を受ける。担当教員と企業より派遣していただいた講師の先生および企業スタッフの方と綿密に打ち合わせを行う。授業実施期間中は、学生の熟達度や授業進捗状況の打ち合わせを行い、学生の熟達状況に応じて臨機応変に授業内容の変更も行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	身体運動塾
トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	身体運動塾
コンディショニングⅠ	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける。	スポーツインテリジェンス
コンディショニングⅡ	競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。	スポーツインテリジェンス
スポーツ医学Ⅱ	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着座しての講義だけではなく、発生機序の理解を実習室等で、実際に体験しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う	スポーツインテリジェンス
(別途、以下の資料を提出)		
* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書(本人の同意書及び企業等の承諾書)等		
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校が定めている、教員に対する研修に係る諸規定に準じ、業団(日本体育協会や日本水泳連盟など)が開催する講習会、学会、研修会に積極的に参加し、現場の応用技術や臨床知識を修得すると同時に、業界の活動や変化を俊敏に捉え、現場と教育が乖離しないように教育に反映させる。		
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 基礎水泳指導員養成講習会 受講(10月30日～11月27日) ※本校は日本水泳連盟の認定校として承認を得ている ※認定校として承認を得ている公認水泳指導員資格の実技担当教員として、日本水泳連盟が推奨する水泳の指導方法や水中運動に関わる様々な環境の変化を理解し、学生に還元することを主な目的とする。(毎年継続して受講) 第5回日本アスレティックトレーニング学会学術集会(7月9日・10日) ※本校は日本体育協会の認定校として承認を得ている日本体育協会公認アスレティックトレーナーの養成を行っている本校において、最新のアスレティックトレーニングを学び、学生に還元することを目的としている。(毎年継続して受講) ②指導力の修得・向上のための研修等 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専任教員講習会(11月9日・10日) ※本校は日本体育協会の認定校として承日本体育協会が主催する教員講習会に参加。アスレティックトレーナーを目指す学生への指導方法を学び、学生指導に活かすことを目的としている。(毎年継続して受講) (3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 公益社団法人 健康づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会(11月8日～11月27日) ※本校は健康づくり事業財団の認定校として承認を得ている ※認定校として承認されている健康運動実践指導者資格の上級資格である健康運動指導士資格を本校教員が取得し、学生の資格対策に活かすことを目的とする。(毎年継続して受講) 第11回 日本トレーニング指導者協会 総会・研修会(5月28日) ※本校は日本体育協会の認定校として承認を得ている * 本校アスレティックトレーナーコースの学生が目指す資格の一つである日本トレーニング指導者協会公認スポーツ指導者の資格発行団体のセミナーに参加し、最新のトレーニング理論を学び、学生に還元することを目的とする。(毎年継続して受講) ②指導力の修得・向上のための研修等 日本レクリエーション協会主催 教員免許更新講習会 受講(11月8日～11月27日) ※本校は日本レクリエーション協会の認定校として承認を得ている ※子どもに対しての運動機能の発達や高齢者に対しての認知機能の向上につながるレクリエーション。教員のレクリエーションの指導テクニックの維持向上を図るための講習参加である。本校スポーツ福祉専攻や子ども体育専攻に導入しているカリキュラムであり、本校教員が継続的に協会の講習を受講することで、充実した教育プログラムを学生に提供できる。(毎年継続して受講) (別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者としてトレーナー業界、医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

本委員会において、企業から参画された委員の意見は以下の内容であった。  
 医療とスポーツを融合した教育方針は理解できるが、職業実践教育においては即戦力が期待されているので、今後この部分の強化が期待される。また、職能教育のみならず、人格育成やスポーツ・医療に携わるにふさわしい人材教育も必要であると意見があった。  
 職業実践教育及び即戦力に対して、学外での実習において、十分な時間の確保及び質の向上に努めている。  
 人材育成においては、入学直後に新入生一泊研修制度を導入し、人格教育及び社会人たるにふさわしい研修を入学初期段階で実施している。  
 最後に委員の意見を学校全体に照らしてみると、これまで若年層を主として対象としていたスポーツの概念をシニア世代の予防運動や体操なども含め、高齢者の特徴や疾病事故の予防医学の観点を教育に反映し、今後は改善を進めて参りたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
伊藤 久夫	公益社団法人 大阪府鍼灸マツサージ師会	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
安村 亮	ラックヘルスケア株式会社	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
野柳 俊英	やなぎ整形外科クリニック	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
中谷 功	なかに鍼灸整骨院	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
萩原 嘉彦	ハギーコーポレーション	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員
松尾 和弥	メディカルケア福田 デイサービス福	平成29年4月1日～平成31年4月1日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物 平成29年10月初旬)

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

(別途、以下の資料を提出)

- \* 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- \* 自己評価結果公開資料
- \* 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

入学者の多くが、将来スポーツ関係に従事したいと考えており、実習概要や校外研修要項を作成し、情報提供として企業等の学校関係者に随時説明を行っている。  
また、就職先や実習先の指導者には、入学者の動機や将来希望する専門分野を説明し、出来る範囲でそのような症例やケースに遭遇できる機会の確保を要請している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2) 各学科等の教育	スポーツ学科
(3) 教職員	先生紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5) 様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6) 学生の生活支援	学生の一泊、就職先・キャリアアップ
(7) 学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8) 学校の財務	情報公開(財務)
(9) 学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

(別途、以下の資料を提出)

\* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タケナカ ヒロシ	所属部署	
	氏名	竹中 宏	役職名	事務長
	所在地	〒532-0024 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21		
	TEL	06-6305-6592	FAX	06-6305-1692
	E-mail	takenaka@riseisha.ac.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程スポーツ学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	社会人が企業で働く上で身に付けている事が望ましいマナーを模擬演習形式で学ぶ	1前	30	2		○		○			○	○
○			ホームルーム	個別面談を定期的に行い、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	12通	120	-				○			○	
○			ホームルーム	進路指導、学級経営を行い、楽しく過ごせる環境を作る。	12前	120	-				○			○	
○			サービス接遇マナー	社会人としての最低限のマナーを身に付け、ビジュアの現場で接遇として表現できるようにする。	1前期	30	2	○			○				○
○			ビジネス実務マナー	社会人常識を身につけると同時に、就職・編入のための面接対策を意識しての授業を実施。	1後期	30	2	○			○				○
○			キャリアデザインI	社会の第一線で活躍している方々の体験談、キャリア形成についての講義、グループワークを通じて、学校生活で学ぶべきことと社会で働く意義や関連性を考え、今後の自らのキャリアを考える	1前	30	2		○		○				○
○			キャリアデザインII	卒業後の展望をある程度明確にし、そのためには行わなければならない学生生活を自らデザインする	1後	30	2		○		○				○
○			ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	60	4		○		○				○
○			ビジネスマナーI	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1前	30	2		○		○				○
○			ビジネスマナーII	ビジネスで用いられるマナーやエチケットなどを模擬演習形式で行う	1後	30	2		○		○				○
○			応接マナーI	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2前	30	2		○		○				○
○			応接マナーII	ビジネスで用いられる対人に対する応接マナーを演習形式で学ぶ。	2後	30	2		○		○				○
○			キャリアデザインI	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	1前	60	4	○			○				○
○			ホームルーム	個別面談を定期的に行い、学生個々の生活状況を把握するとともに、実習や就職指導も並行して行う。	12通	120	-				○				○
○			イベント運営法I	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するイベントを企画から運営までを行う。	1前	30	2			○	○				○
○			イベント運営法II	小学生と女子高校生を対象に年2回開催するイベントを企画から運営までを行う。	1後	30	2			○	○				○
		○	パソコン実習	ワード・エクセル・パワーポイントの基礎的な使用方法を学ぶ。	1後	30	2		○		○				○
		○	キャリアデザインI	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○				○
		○	キャリアデザインII	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2後	30	2	○			○				○
		○	ゼミ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	30	2				○				○
		○	日本語表現I	日本語の文章等を文字によって表記するための系統的な方法についてまなび、小論文等で自分の考えを表現できるようにする。	2前	30	2	○			○				○
		○	日本語表現II	自ら意見をまとめるうえで必要となる情報を主体的に収集し、課題解決に取り組む姿勢を身に付ける。また、自身でテーマを取り上げ、そのテーマに対しての論文作成を実践する	2後	30	2	○			○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	公務員試験講座	公務員試験受験のための対策授業。	2後	30	2	○			○				
		○	実践英語Ⅰ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学	2前	30	2	○			○		○		
		○	実践英語Ⅱ	英語の読み・書きを中心に基礎から応用まで学	2後	30	2	○			○		○		
		○	英会話Ⅰ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1前	30	2		○		○		○		
		○	英会話Ⅱ	英会話の基礎から応用まで学び、実践できるようになる。	1後	30	2		○		○		○		
		○	パソコン基礎Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	1前	30	2		○		○		○		
		○	パソコン基礎Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	1後	30	2		○		○		○		
		○	パソコン応用Ⅰ	パソコンを用いて文書作成や表計算が行えるようになる。	2前	30	2		○		○		○		
		○	パソコン応用Ⅱ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2前	30	2		○		○		○		
		○	パソコン応用Ⅲ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○		○		
		○	パソコン応用Ⅳ	パソコンを用いて文書作成や表計算、プレゼン資料作成を学ぶ。	2後	30	2		○		○		○		
		○	ビジネス電話講座Ⅰ	ビジネスで用いる電話対応について学ぶ	1前	30	2		○		○			○	
		○	ビジネス電話講座Ⅱ	ビジネスで用いる電話対応について学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
		○	ビジネス文書講座Ⅰ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス文書講座Ⅱ	ビジネス文章の作成における注意点・マナーについて学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	秘書講座Ⅰ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	秘書講座Ⅱ	多岐に渡る秘書業務に関する知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス実務講座Ⅰ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	ビジネス実務講座Ⅱ	ビジネスにおける実務マナーについて学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
	○		キャリアデザインⅡ	自分の仕事人生のプランを自ら設計し決定するための方策を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○	ビデオ編集法	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1前	30	2		○		○		○		
		○	ビデオ編集法	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	1後	30	2		○		○		○		
		○	ビデオ編集法	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2前	30	2		○		○		○		
		○	ビデオ編集法	ビデオカメラで撮影した動画の編集法を学ぶ	2後	30	2		○		○		○		
		○	簿記初級Ⅰ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	簿記初級Ⅱ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	簿記初級Ⅲ	財産の増減・出納を一定のしかたで記録・計算・整理して、結果を明確にする記帳法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅰ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅱ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	簿記中級Ⅲ	商業簿記・工業簿記を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅠ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅡ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12前	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅢ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	
		○	リテールマーケティングⅣ	販売技術や接客技術、在庫管理やマーケティング、労務・経営管理にいたる幅広く実践的な知識を学ぶ	12後	30	2	○			○			○	



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			解剖学Ⅰ	身体の基礎となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基础知識を学ぶ	1前	30	2	○			○	○			
○			解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、どういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	1後	30	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅲ	人体の構成について医学的に学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅰ	内科的スポーツ障害についての医学的基礎知識を学ぶ。様々な障害がなぜ起こるのか、その発生機序、そして対処方法を理論的に学ぶ	1前	30	2	○			○			○	○
○			スポーツ医学Ⅱ	スポーツ選手に多い傷害を中心に、発生機序から予防・リスク管理について理解を深めつつ、様々な場面での対応ができるような知識を着座しての講義だけではなく、発生機序の理解を実習室等で、実際に体現しながら学習を進め、スポーツ現場で判断できる力を養う	1後	30	2	○		○	○			○	○
○			スポーツ生理学Ⅰ	ヒトは身体運動中にどのような生理的反応が起こるのか？運動と反射、運動と筋肉、運動とエネルギー代謝の関係を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ生理学Ⅱ	運動が骨、関節、呼吸循環、体温調節、内分泌とどのような関連があるのか、どう影響するのかを学び、運動処方できる知識を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ栄養学Ⅰ	5大栄養素についての理解を深め、食物の必要性と食習慣が身体に及ぼす影響を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学Ⅰ	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ心理学Ⅱ	心理的コンディショニングがパフォーマンスに及ぼす影響を理解し、実際のスポーツ現場で生じる心理的現象に対応できる実践力を身につける	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ指導論Ⅰ	指導者の役割を理解し、指導内容、指導活動、指導上の留意点を踏まえ、各専門種目の年間計画、日間メニューを作成する力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			トレーニング論	トレーニングの基本原則を理解し、筋活動の収縮様式、3大負荷条件をどのようにプログラムするのか？機能解剖学的な観点も踏まえ、クライアントの目的達成のためのトレーニング計画を作	1前	30	2	○			○			○	
○			発育発達論	発育発達期の身体的、心理的特徴、ケガや病気、そして中高年者や女性特有の障害について学ぶ。またコーディネーショントレーニングが理論的に発育発達にどう影響するのかを学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーションⅠ	アスレティックリハビリテーションの基礎を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			救急処置法	外傷時の患部固定法・運搬法、心肺蘇生法など救急処置の基本的知識を学び、フローチャートをもとに実践できる力を身につける	1後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ経営学	日本におけるスポーツの役割と行政の動きを理解し、スポーツ産業を取り巻く提供事業の経営のあり方とマネジメントを現場の状況から多角的に考	2後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの役割・指導者の役割を理解し、今後の日本のスポーツ産業が人のライフスタイルにどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			体力測定評価法	筋力、柔軟性、関節動揺弛緩性、アライメント、身体組成の測定方法・評価方法の手順を理解する。また整形外科的、内科的メディカルチェックを基に統計分析しフィットバックできる力を身につける	2前	30	2			○	○			○	
○			バイオメカニクス	身体の動きを物理的に理解・評価し、効果的な動きを理解する。	2前	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ栄養学Ⅱ	トレーニング効果を高める食事とは何か？スポーツ活動における栄養の役割を理解し、各スポーツ種目のパフォーマンスアップに必要な栄養素、摂取方法、期分けについて学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーションⅡ	各傷害に対するリハビリテーションを学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			アスレティックリハビリテーションⅢ	アスレティックリハビリテーションのプログラミングを行う。	2前	30	2	○			○		○		
○			スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	○
○			スポーツメディカルⅠ	スポーツ医学を西洋的・東洋的にアプローチ方法が違う多角的な目線について学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			ゼミⅠ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2前	30	2		○		○		○		
○			ゼミⅡ	グループごとに研究課題を決め、アクティブラーニングによって問題解決力・思考力・行動力を養うことを目的とする	2後	30	2		○		○		○		
○			テーピングⅠ(足関節)	解剖学的観点から、傷害発生率が非常に高い足関節の内反捻挫のテーピング技術を学ぶ。機能性、巻く時間、見た目を重視する授業展開とする	1前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	身体運動の効果を十分に上げるための諸要素を学ぶ。その中でも、柔軟性トレーニングが及ぼす身体活動の変化を筋の構造と機能を理解したうえで実践に結びつける	1前	30	2			○	○			○	○
○			トレーニング実習	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	1前	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅰ	筋肉の機能・関節の構造からトレーニング指導の基本を習得し、ウェイトトレーニングのフォーム・重さ・回数・セット数・テンポなどの変数の違いやシステムによる効果の違いを実践を通して学ぶ	1通	60	4			○	○			○	○
○			コンディショニングⅡ	競技スポーツにおいて勝つためのすべての準備を「コンディショニング」ととらえて、競技者、チームに対するコンディショニングとはどのようなことを学び、その方法を実際に体験する。	1後	30	2			○	○			○	○
○			体力測定評価実習	スピード・アジリティ・間欠的能力・有酸素能力といったフィールドテストを実践を通して学ぶ。また測定方法・評価方法を学び統計分析しフィードバックできる力を身につける	2後	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅱ	ラダーやミニハードル、バランスボールなどのフィットネス器具を用い、理論を交え使用方法を学び、クライアントにデモンストレーションできる力を養う。また、個々にあったトレーニングプログラムを作成できる力を身につける。	2通	60	4			○	○			○	○
○			スポーツ実技Ⅰ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年通年	120	8			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ実技Ⅱ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅲ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅳ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			スポーツ実技Ⅴ	バスケットボール実技を基礎から応用まで実践的に行う。1年を通して大会があるため、実技の成果を試合にて発揮できるか、結果を出すため実技授業にて「勝負」に対して厳しく、試合をイメージして授業に臨んでいるか、または環境作りをしていく。そして、チームの約束事やルールを理解し実践していく。	1年 通年	120	8			○	○		○		
○			ルール・レフリング	*ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 *日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 *国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 *学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	1年 前期	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年 前期	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅡ	ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性や知識の学習、体力向上につながるフィットネステストの必要性、各種目におけるコンディショニング方法の違いを学び、視野の広いコンディショニングができるようにする	1年 後期	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅰ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年 前期	30	2			○	○			○	○
○			トレーニング実技Ⅱ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	1年 後期	30	2			○	○			○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニング実技Ⅲ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年前期	30	2			○	○			○	
○			トレーニング実技Ⅳ	バスケットボールに求められる、肉体的・精神的な面にアプローチをし、競技力、人間性を高める。トレーニング前期は体重と同じKgをベンチで上げるトレーニング後期は体重の1.5倍のKgをベンチで上げる	2年後期	30	2			○	○			○	
○			エアロビクス	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。 グループ発表を行うことを最終目標とする。	1年後期	30	2			○	○			○	
○			テーピングⅠ	各関節におけるテーピング技術の習得。 正確さ・早さに重点を置き、実技テストの評価のみで課程を修業とする。 各テーピングでの実技テストで及第点を取らない場合、テーピングⅠコースを修業と見做さない。	1年後期	30	2			○	○			○	
○			スポーツマッサージⅠ	運動器の機能、解剖のメカニズムを理解しスポーツマッサージの技能を実技によりマスターする。	2年前期	30	2			○	○			○	
○			スポーツマッサージⅡ	生徒同士で、施術者と患者を想定し、マッサージを行います。その中で、各部位にある筋肉を実際に触って覚え、筋肉ごとに適した刺激量・刺激方法の獲得を目指す。	2年後期	30	2			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○			○	
○			スポーツ実技	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○			○	
○			コンディショニングⅠ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅡ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	1後	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2前	30	2			○	○			○	
○			コンディショニングⅣ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2後	30	2			○	○			○	
○			トレーニングⅠ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1前	30	2			○	○			○	
○			トレーニングⅡ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。 体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	1後	30	2			○	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニングⅢ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2			○	○		○		
○			トレーニングⅣ	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2後	30	2			○	○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅰ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	1後	30	2	○			○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅱ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2前	60	4	○			○		○		
		○	A T 理論試験講座Ⅲ	アスレティックトレーナー客観式試験の合格を目指し授業を行う。	2後	90	6	○			○		○		
		○	アスレティックトレーナー概論	アスレティックトレーナーの役割について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
		○	A T 演習	アスレティックトレーナー業界について学ぶ。	1前	30	2		○		○		○		
		○	コンディショニングⅢ	さまざまな競技におけるコンディショニングについて、その競技、あるいは種別ごとに特徴を理解し、自ら計画を立てられる力を養う	2後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ指導者基礎理論Ⅰ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて、基礎理論を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導者基礎理論Ⅱ	日本トレーニング指導者協会のトレーニング指導者試験に向けて応用理論を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導者としての基礎的な知識と実践を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
		○	トレーニング科学	動作改善指導に必要な着眼点と考え方を学び、現場での応用力を身に付ける。スポーツ障害発生の予防、技術・成績の向上に不可欠な様々なトレーニング効果を生む指導法を学ぶ	2通	60	4			○	○			○	○
		○	スポーツ医学Ⅲ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅳ	スポーツ医学の内科関連分野における幅広い知識を身に付ける。	2前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅴ	スポーツ活動時に発生する整形外科的傷害について理解を深める。	2後	30	2	○			○			○	
		○	トレーナー特論	競技種目を体力特性、動作特性、競技特性など多方面から理解し、アスレティックトレーニングの指導時に実践できる知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ栄養学Ⅲ	スポーツの現場で、実際に選手が必要な栄養をとるために何をどれくらい食べればよいかを指導できる知識と技術を身に付ける	2後	30	2	○			○				○
		○	身体評価学	全身から各部位へ視診・触診でアライメント評価して傷害を予測し、さらに的確にストレステストを行って傷害を確定できる能力を身に付ける。	1前	30	2			○	○		○		
		○	トレーニング指導者論	トレーニング指導者認定試験模擬問題集を参考に試験対策をおこなう。	2後	30	2	○			○		○		
		○	生涯健康論	中年期における生活習慣病予防、高齢期における介護予防（老年症候群予防）などに関連するトピックスをとりあげ、支援に必要な基礎知識と実践方法について学習する	2前	30	2	○			○		○		
		○	運動処方論	生活習慣病、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、認知機能向上に対する適切な運動療法について理解する	2後	30	2	○			○		○		
		○	健康運動実践指導者試験講	健康運動実践指導者筆記試験に向けて、テスト形式で出題と解説を繰り返しレベルアップを図る	2後	30	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ボディメイク理論	食べる力を高めることで心と体の両面からの健康を追究し、クライアントの目的に応じた食育指導の実践能力を高める	2後	30	2	○			○			○	
		○	CPT試験講座	N S C A - C P T 試験に向けて、パーソナルトレーナーの基礎知識全般を各単元に分け、問題形式で試験への対策を目的とする	1前	60	4	○			○		○		
		○	プログラミング	クライアント個々の現状を把握して、どのようなトレーニングが適切か、どれくらいのボリュームで行うべきかを分析し、実際にトレーニングメニューを作成する力を身に付ける	2後	30	2				○			○	
		○	パーソナルトレーナー概論	個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成するため、動作分析・生理学的分析・傷害分析の理解を深め、解剖学的・運動生理学的観点から個々に必要なトレーニング種目や負荷条件の設定	1後	30	2				○			○	
		○	運動動作療育	ノルディックウォーキングやニュースポーツなどの高齢者スポーツを、運動の特性や効果を理解した上で実践活動し体感する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	介護予防運動概論Ⅰ	介護予防のシステムや成り立ち、仕組みを理解し、運動が介護予防にどうつながるのかを学ぶ。また、運動面だけでなく様々な要因からサポートする必要性があることを理解する。	1後	30	2	○			○				○
		○	介護予防運動概論Ⅱ	高齢者特有の疾患、運動特性を理解し、個々に適した運動プログラムを作成できる力を身に付ける	2前	30	2	○			○				○
		○	障がい者スポーツ概論	障害の種類や程度を理解し、それぞれに適したスポーツやレクリエーションを提供できる仕組みや社会環境について学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	エアロビクス理論	現場での様々な参加者に応じた、安全で効果的な有酸素運動のプログラム作成と指導が出来るように、エアロビクスの理論を通して身体の運動メカ	2通	60	4	○			○				○
		○	水泳特論	公認水泳指導員資格取得のための水泳基礎学を学ぶ。水泳の歴史や、安全対策、4泳法の指導法を	2後	30	2		○		○				○
		○	フィットネスマネジメント論	フィットネス業界の現状を知り、今後の業界発展のために、どのようなマネジメントが必要なのか？をディスカッション方式で学び、就職後の企画運営力を高める	2前	30	2		○		○				○
		○	解剖学Ⅰ	身体の基本となる骨格、筋肉などの軟部組織の構造を理解し、運動指導者として必要な解剖学的基	1前	30	2	○			○			○	
		○	解剖学Ⅱ	各筋肉の作用が各トレーニング種目とどのような関係性を持つのか、筋肉の走行から関節動作を起こすメカニズムを理解し、こういったトレーニング種目がプログラムできるのかを学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ医学Ⅰ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
		○	スポーツ医学Ⅱ	競技スポーツ選手の身体能力の強化、好成績を出すため身体の使い方、故障の予防、治療などを取り扱う、総合的な専門医学分野を学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
		○	スポーツ生理学Ⅰ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ生理学Ⅱ	運動中の身体の生理的な反応について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
		○	スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツに求められる栄養素の摂取と反応について学ぶ。	1後	30	2	○			○				○
		○	スポーツ心理学Ⅰ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1前	30	2	○			○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	スポーツ心理学Ⅱ	スポーツに関する精神的領域を対象とする学問。運動とストレスの関係など諸問題を研究する。	1後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ指導論Ⅰ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についての理解を深める	2前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ指導論Ⅱ	スポーツ指導についての正しい知識と効果的な指導法についての理解を深める	2後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ経営学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ社会学	科学的な経営手法を用いて、スポーツがもたらす様々な便益を人々が享受し、豊かなスポーツ生活を実現するための組織的活動の原理原則を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
		○	トレーニング論	安全で効果的なトレーニングを実施するための原理・原則を理解する。体力測定や各種トレーニングの実施から、トレーニングプログラム作成の実際について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
		○	発育発達論Ⅰ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだが完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。	1前	30	2	○			○			○	
		○	発育発達論Ⅱ	誕生から乳児期、幼児期、学童期、思春期を経て、からだの完成する時期に関するからだの加齢変化を主に形態から理解する。		30	2	○			○			○	
		○	生涯学習論・運動処方論	健康増進、体力の維持増強や治療の目的をもって身体運動の強度、持続時間、頻度などを示すことができるようになる。	1前	30	2	○			○			○	
		○	バイオメカニクス	生物の構造や運動を力学的に探求したり、その結果を応用したりすることを学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツ概論	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論Ⅲ(特講)	未開講		30	2								
		○	スポーツ概論Ⅳ(特講)	未開講		30	2								
		○	戦術論Ⅰ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について	1全	60	4	○			○			○	
		○	戦術論Ⅱ	サッカーの試合で戦いに勝利する為の方策について	2全	60	4	○			○			○	
		○	CPT概論	CPT合格を目指し、教科書に沿った内容でテストに出題されるところをおさえていく。基本的には、毎回予習課題を出し、教科書を見る癖をつけるようにする。ビデオ問題に向け、実技も実施することで動きを確認し、対策を行う。テストの対策だけでなく、現場でも実践できるような技術も勉強する。	1年後期	30	2	○			○			○	
		○	CPT演習	* ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。 * 日本公認ライセンスの取得を希望する学生への対策として、他連盟へ協力を依頼し各大会に学生を派遣して実践指導をする。 * 国内主要大会に携わる立場として、学生に対してリアル・タイムで現在のバスケットボールに関わる情報を発信する。 * 学生の要望や進路実現に向けコース長と連携を図り、柔軟性を持って授業を展開したい。	2年前期	30	2	○			○			○	
		○	保育士演習	資格挑戦	1年後期	60	4	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	介護初任者研修演習	資格挑戦	1年後期	30	2	○			○			○	
		○	幼児体育Ⅰ・Ⅱ	幼児の身体的特徴、成長曲線を理解した上での体育活動について学ぶ	1後	60	4	○			○				○
		○	幼児体育Ⅲ・Ⅳ	未開講		60	4								
		○	スポーツメディカルⅡ	未開講		30	2								
		○	アスレティックリハビリテーション	社会復帰のレベルからさらに競技復帰レベルまでを考えて行っていくリハビリテーションを学ぶ	1後	30	2	○			○				○
		○	テーピング	スポーツ選手が負傷を予防、もしくは負傷した部位の悪化を防止するために、関節、筋肉などにテープを巻いて固定する方法を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	ロジカルコミュニケーション	「明快でわかりやすく」かつ「論理的で正確な」コミュニケーションのこと。このスキルの身に	1前	30	2	○			○			○	
		○	クラブマネジメント	クラブチームを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2前	30	2	○			○				○
		○	クラブマネジメント	クラブチームを運営する上で必要な知識等を学ぶ	2後	30	2	○			○				○
		○	スポーツメイスⅠ	スポーツを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
		○	スポーツメイスⅡ	スポーツを取り巻く医療分野の中で西洋医学のみでは無く、東洋医学も含めた医療内容を学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
		○	トレーナー特論Ⅰ・Ⅱ	トレーナーに関する知識・技能を幅広く学ぶ	12全	60	2	○			○				○
		○	トレーナー特論Ⅲ・Ⅳ	トレーナーに関する知識・技能を幅広く、深く学ぶ	12全	60	2	○			○				○
		○	テーピングⅡ	スポーツ現場で使えるテーピングの応用を学ぶ。	1後	30	2			○	○			○	
		○	CFSC	ファンクショナルトレーニングの哲学・理論・実技を習得する。	1後	30	2			○	○				○
		○	物理療法概論	コンディショニング、アスレティックリハビリテーションで使われる物理療法などを実際に体験	1後	30	2			○	○			○	
		○	アスレティックリハビリテーションⅣ	アスレティックリハビリテーションのプログラミング内容を指導する。	2後	30	2		○		○			○	
		○	触診Ⅰ	骨・筋等の解剖学の知識を中心に整理し、骨指標、筋の形状や走行、硬さ等を確認し習得を目指す	1後	30	2			○	○				○
		○	触診Ⅱ	骨指標および体表から確認できる筋群の触診の実技を中心に進める。	2前	30	2			○	○				○
		○	フィットネスエクササイズ	健康体力増進のためのエアロビックダンスエクササイズを正しい姿勢、正しい動きで実践できる力を養う。そして、効果的で安全なプログラム作成	1前	30	2			○	○				○
		○	水泳	競泳4泳法において、完成までの一連のプログラムを実践することで水泳理論を学ぶ。また水中運動に関わる様々なプログラムを体験する	1通	60	4			○	○				○
		○	ストレッチ&コンディショニング実習	柔軟性トレーニング・スタビリティトレーニング・プライオメトリクストレーニングの理論を理解し、実践を通して運動プログラムの手法を学ぶ	1後	30	2			○	○			○	
		○	ピラティス実践	ピラティスエクササイズの理論を理解し、まず自分自身が見本を見せられる動きを習得する。その後、個々のクライアントに対してのプログラミングを学び、指導・コミュニケーションスキルを高	2通	60	4			○	○				○
		○	グループ指導実践	指導現場における多様化されたグループ指導プログラムに対応するための授業。グループエクササイズ指導に必要なホスピタリティ、リーダーシップを理解し、健康成人・発育、発達期・高齢者など対象レベルに応じたプログラムの作成、実践を	2後	30	2			○	○				○
		○	パーソナルトレーナー実技	未開講		30	2								
		○	傷害評価法	身体の各関節におけるROM、MMT、Special Testの基本的手法、流れを学び傷害評価に必要な手技を学ぶ	2前	30	2			○	○				○



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ファンクショナルトレーニング実践	移行的動作評価(オーバーヘッドスクワット・シングルレッグスクワットe t c)の目的、動作手順、評価方法・評価基準を理解し、クライアントの動作の問題点を正しく抽出しできる手法を学ぶ	2前	30	2			○	○		○		
		○	スポーツマッサージ	マッサージの目的、効果を理解し、軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法などの様々な手技と手順を実践を通して習得する	2前	30	2			○	○		○		
		○	福祉レクリエーション	高齢者施設の対象者に対して、ゲームや歌、集団遊びを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	2前	30	2			○	○		○		
		○	メディカルトレーナー実践	高齢者施設への介護予防運動現場実習に向けて、運動プログラムの企画、運営、参加者募集方法などを考案し、実践指導に向けての準備を行う。また実習先へ企画のプレゼンテーションを行う	2前	30	2			○	○		○		
		○	介護予防運動実践	介護予防運動の基本計画をもとに、運動プログラムの実践活動を行う。その活動の中で修正を加え、オリジナルプログラムを作成する	2後	30	2	○			○			○	
		○	レッドコード演習	レッドコードの目的、効果を理解し、機能的な神経筋トレーニング、スポーツパフォーマンスの向上、リハビリテーションといった目的に対して、効果的な運動プログラムを作成できる力を身に付	2後	30	2		○		○		○		
		○	水泳指導法	水泳指導員に必要な競泳4泳法の指導テクニックを学ぶ。各泳法でよく見られる問題点に対する改善方法、指導ポイントを実践を通して学ぶ	2通	60	4	○			○			○	
		○	レクリエーション(生涯スポーツ)	子どもに対してゲームや歌、集団遊びやスポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる力を養う	1後	30	2	○			○			○	
		○	幼児体育実践	未開講		30	2								
		○	幼児体育実践	キッドビクスプログラムの中の根幹であるアクティビティ・プレイ&フィットネスエクササイズについて、自身でプログラムを体感し、子どもたちへのフィットネスエクササイズプログラム作成	2通	60	4	○			○			○	
		○	エアロビクス理論	リズム感を養いバスケットボールの技術向上に繋げる。	2通	60	4	○			○			○	
		○	スポーツ指導法(バレー)	未開講		30	2								
		○	こどもと体育	遊びフィットネスの運動プログラムを作成し、からだと道具を使ったコラボレーションプログラムをプレゼンテーションできる力を身に付ける	2前	30	2		○		○			○	○
		○	スタジオエクササイズ実践	健康・体づくりを目的とした様々なエクササイズを体験し、それぞれの運動の特徴や内容を理解するとともに、指導者として必要な体力の向上を	1通	60	4		○		○			○	
		○	アクアウォーキングエクササイズ	水の特性と水中運動の効果を実技を通じて理解を深める。水中でのウォーキングエクササイズ・レジスタンスエクササイズの指導テクニックを身に	1後	30	2		○		○			○	
		○	アクアビクスエクササイズ	アクアダンスの基本動作と強度変換方法を理解し、実践を通してコンディショニングプログラムの作成・指導テクニックを学ぶ	2前	30	2		○		○			○	
		○	エアロビクス実技	常に指導現場の現状・新しい情報を取り入れ、幅広い年齢層の目的に応じたエアロビクス指導技術	2通	60	4			○	○			○	
		○	スポーツ実技Ⅵ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○		
		○	スポーツ実技Ⅶ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○		
		○	スポーツ実技Ⅷ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
		○	スポーツ実技Ⅹ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○			
		○	スポーツ実技Ⅹ	個人技術・個人戦術を実技を通して学ぶ	2通	120	8			○	○		○			
		○	指導法Ⅰ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○			
		○	指導法Ⅱ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○			
		○	指導法Ⅲ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○			
		○	指導法Ⅳ	スポーツの指導者についての指導技術について実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○			
		○	指導法実践Ⅰ	スポーツ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2前	60	4			○	○			○		
		○	指導法実践Ⅱ	スポーツ指導技術を実際の指導現場同様に実践し学ぶ	2後	60	4			○	○			○		
		○	審判法Ⅱ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1全	120	8			○	○			○		
		○	審判法Ⅲ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	2全	60	4			○	○			○		
		○	チーム戦術Ⅰ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1前	60	4			○	○		○			
		○	チーム戦術Ⅱ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	1後	60	4			○	○		○			
		○	チーム戦術Ⅲ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2前	60	4			○	○		○			
		○	チーム戦術Ⅳ	チーム戦術を実技を通して学ぶ	2後	60	4			○	○		○			
○			現場実習Ⅰ	学校指定のパーソナルジム・介護予防運動施設・フィットネスジム等の健康増進施設にて120時	1通	60	4			○	○					
○			現場実習Ⅱ	学生個々で実習希望先を決め、個々の指導技術レベル、実習経験をもとに15日間の指導実習を行う	2通	60	4			○	○					
○			社会体育実習	1年次はキャンプ・スキー・ピラティス研修から選択、2年次はキャンプ・スノーボード・ヨガ研修から選択し、各指導者資格取得を目指す	1通	120	8			○	○					
○			基礎実習	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○			
○			専門実習	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○			
		○	現場実習Ⅲ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2前	60	4			○		○	○	○		
		○	現場実習Ⅳ	各種目の様々な指導現場で実践的な指導法を身をもって体験する。	2後	60	4			○		○	○	○		
		○	ルール・レフリング実習Ⅰ	競技スポーツの審判方法について学ぶ。	1前	30	2			○	○		○			
		○	ルールレフリング実習Ⅱ	*ルールに対する正しい知識を学び、バスケットボール技術の理解や習得に繋げる。	24後期	30	2			○		○		○		
		○	運営実習Ⅰ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。自分で考え行動する力をつける。	1年	30	2			○		○		○		
		○	運営実習Ⅱ	プロスポーツの現場に行き、運営実習を行う。自分で考え行動する力をつける。	24後期	30	2			○		○		○		
		○	現場実習Ⅰ	インターン活動で、会社に自分をアピールすると同時に様々なスキルを獲得する。	1年後期	30	2			○		○		○		
		○	現場実習Ⅱ	インターン活動で、会社に自分をアピールすると同時に様々なスキルを獲得する。	24後期	30	2			○		○		○		
		○	指導者実習Ⅰ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○		
		○	指導者実習Ⅱ	校外の指導現場にて指導を行い学ぶ	2全	30	2			○		○		○		
		○	海外研修	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学び取る	2全	30	2			○		○	○			
		○	基礎実習Ⅱ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○			
		○	基礎実習Ⅲ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	30	2			○		○	○			
		○	基礎実習Ⅳ	校外のスポーツ施設において学ぶ	1全	60	4			○		○	○			
		○	専門実習Ⅱ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	60	4			○		○	○			
		○	専門実習Ⅲ	校外のスポーツ施設においてかつ、興味ある分野に特化して学ぶ	2全	30	2			○		○	○			
		○	海外研修Ⅰ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学ぶ取る	12全	30	2			○		○	○			
		○	海外研修Ⅱ	海外の環境・文化・生活を実際に足を運び学ぶ取る	12全	30	2			○		○	○			
合計				263 科目	1860単位時間(155 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学生は、学則に定める教育課程の所定の科目を履修し、所定の単位を修得しなければ、進級もしくは卒業できない。また、卒業要件については、規定の出席率をみたし、指定された単位数を修得し、卒業判定会議で審査し、校長が認定したものとす。	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。